地域経済の持続可能な発展を目指す会議検証部会（基本的方針１　目指す姿１～４）議事要旨

開催概要

日時：令和７年７月１１日（木）　１８時３０分～２０時３０分
場所：世田谷産業プラザ３階　大小会議室

出席者
〈委員〉
古谷部会長、栗山委員、中村委員、阿部委員、宮井委員、
児玉委員、森原委員
〈世田谷区〉
石川商業課長、北経済課長、梅原都市農業課長

議論の要点

部会長からの問題提起

- 事務局説明部分について、委員として異論はない。適切に修正されたい。
- 会議では、よりマクロ的な視点から「これでいいのか」「これ以外にないのか」という根本的な議論が必要。
- ロジックモデルの「目指す姿」から「主な課題」「きっかけとなる変化」「変化の状況」への繋がりを、委員が深く理解し、独自の視点から意見を出すことが重要。

委員からの意見

商店街関連

- **イベント補助金**：商店街のイベント補助金は街の集客には繋がるが、個店の売上には直結しにくい。イベントそのものは盛り上がるが、個店が閑散とするケースもある。
- **公共的役割の理解促進**：新規開店の個人店は、まず自身の経営が優先で、商店街の公共的役割や会費負担、活動参加には消極的になりがち。

- **組織力とインセンティブ**：世田谷 Pay のポイント還元事業（15%）は好評で売上増に貢献している。組織力強化のためには、商店街加盟店へのインセンティブが必要。非加盟店との差を設けるべき。組織力を上げていくことで公共的役割を担っていける。
- **防犯カメラ・街路灯**：防犯カメラや街路灯の設置は、維持管理費が課題。初期費用は助成されてもランニングコストが負担となり、故障しても修理できないケースがある。これらは「まちづくり」の側面が強く、直接的な「産業活性化」とは異なる。

農業関連

- **後継者問題**：農業の後継者不足が深刻。体験農園だけでなく、後継者育成の視点も重要。
- **農地の維持・保全**：都市農業としては、農地の拡大は難しいが、既存農地の維持・保全が最重要課題。営農支援や新たな担い手づくりを目指す。
- **収益性**：小規模農家が多く、大量生産が困難。収益を上げるためには、希少性の高い作物や付加価値の高いものへのシフトも検討すべき。
- **納税猶予制度**：農業には納税猶予制度があるが、事業承継税制は利用が進んでいない。

建設業・公共事業関連

- **産業分野の網羅性**：提示された 8 つの産業分野だけで良いのか、福祉など他の分野も検討すべきではないか。
- **公共事業の活用**：地方自治体として地域の事業者を育成するための一つの手段として公共事業がある。区の公共事業において、地元事業者の受注率向上や雇用促進を支援する視点も重要。
- **エコ住宅補助金**：区内事業者限定の補助金制度で、区外業者が 8 割を占めた事例がある。区内の事業者に発注が促されるような制度設計の改善が必要。区の支援は、事業者が自らできない部分に焦点を当てるべき。
- **区民への発信**：公共事業の区内事業者受注率を増加し、雇用が拡充するなど建設業の経営が改善されてから、その上で建設業の社会的に良い所を区民に発信していくべき。

ロジックモデル目指す姿１の論理

- **商業**：主な課題と現状に「区内商業の活性化」と「区内商業の公共的役割の理解促進」が挙げられているが、区からイベントの支援のみでは、その課題と現状には繋がらない。
- **商業**：行動指標１「商店街団体の活動の支援数」について、「支援数」という記載だけでは、どういった支援なのか不明であるため、記載ぶりを修正されたい。
- **農業**:農地の重要性に関する認知度を上げるためには、アクションプランに記載のある「農業塾」や「農業サポーターの登録」によって農業の底上

げと協力者の理解を深めることに繋がる。「体験農園の参加者数」を指標とするよりも行動指標として適切ではないか。

- **建設業**：主な課題・現状として「区内建設業の活性化」と「区内建設業の地域貢献活動の理解促進」ということは適切であると考える。
- **建設業**:きっかけとなる変化と取組例で「売上増や経営改善等に向けた取組みを始めている」から短期アウトカムで「建設業の地域貢献活動に関する理解が促進される」は論理が飛躍していないか。
- **建設業**：きっかけとなる変化と取組例の「売上増や経営改善等に向けた取り組みを始めている」も区内建設業の活性化に繋がると考えている。「建設業に係る重要性の理解促進」に取り組むことも論理として適切であると考えている。
- **その他**：「主な課題・現状」について、商業、工業、農業、建設業と４つの業種があるが、福祉や教育などは入れる必要はないのか。

全体的な課題と提案

- **プロジェクトレビューの必要性**：令和６年度目標値と現状の乖離があるプロジェクトについて、具体的なレビューが必要。事業の仕組み変更などが影響している可能性がある。
- **現場からのフィードバック**：指標で測られても仕方ないと感じている事業者からの意見を収集し、より適切な指標設定や支援策に繋げるべき。金銭補助の適切性（十分か不十分か、多すぎるか少なすぎるか）も現場の声を聞いて調整すべき。
- **「活性化」の定義**：「活性化」という言葉が抽象的であり、具体的な姿を共通認識として持つ必要がある。
- **「公共的役割」の押し付けがましさ**：各産業が公共的役割を担うことで活性化するというロジックは、区民にとって実感がわきにくい。
- **区、団体、個々の企業の役割分担**：それぞれの役割を明確にし、区は民間ではできない部分を支援すべき。
- **事業の周知不足**：区が実施するイベントや事業等の施策は、区民への周知が不足している。良い取り組みであっても、情報が届かなければ意味がない。広報の「見せ方」や「打ち出し方」を改善し、より多くの区民に知ってもらう努力が必要。

次回に向けた対応

委員の対応

- 提示されたロジックモデル資料（特に「目指す姿」と「アクションプラン」）を読み込み、内容を理解する。
- 資料内容に関する不明点があれば、事務局に随時確認する。

- 区、団体、個々の企業の役割分担を区別し、区として手を入れる必要があるものを行動指標としていくことを念頭に議論を進めていく。
-

事務局の対応

- 次回会議に向けて、ロジックモデルの行動指標とアクションプランが紐づく意見をまとめるために必要な資料を準備する。
- 行動指標に関係する「きっかけとなる変化」が区として最低限実施すべきものとなっているか、当該変化が短期アウトカム指標や中長期アウトカム指標につながるものなのか、引き続き検証を進めていく。